

# 第30回BMS研究会定例会総会

(財)食品農医薬品安全性評価センター  
エーザイ(株)

中嶋 圓  
羽倉昌志

2003年7月11日

# 平成15年度～16年度BMS研究会幹事

会長 :羽倉昌志 (エーザイ株式会社)

庶務幹事 :須井 哉 (財団法人食品安全センター)

会計幹事 :小椋正造 (財団法人化学物質評価研究機構)

幹事 :中村真人 (社団法人日本油料検定協会)

幹事 :西郷和彦 (株式会社新日本科学)

幹事 :田中 仁 (財団法人食品農医薬品安全性評価センター)

幹事 :佐藤精一 (日本たばこ産業株式会社)

幹事 :斉藤 賢 (キッコーマン株式会社)

幹事 :鐘尾美江子 (光栄テクノサービス株式会社)

# 微生物変異原性試験研究会 (BMS研究会)

## 目的

微生物を用いる各種変異原性試験について検討し、この分野の発展に努めると共に、日本環境変異原学会の発展に寄与すること。

## 名称

日本環境変異原学会・微生物変異原性試験研究会

(The Environmental Society of Japan/Bacterial Mutagenicity Study Group. 略称: JEMS・BMS研究会)

## 会員数

72名(2003年7月現在)

# JEMS・BMSの沿革

- 1986年に労働省 (現 :厚生労働省 )が実施した変異原性試験の精度管理試験の結果 ,試験実施機関の間に差 (変異誘発物質に対するレスポンスの差 )があることが判明。この差をなくすことを目的に ,『Ames試験に限定した試験実施上諸問題を ,同様の試験を実施している多くの研究機関の中で討議し ,質的な向上を図る会』として設立された。
- 1988年 6月に第1回定例会開催  
以後 ,年 2回の定例会を実施 (うち 1回は日本環境変異原学会の開催日 )
- 1995年 6月に日本環境変異原学会の分科会として承認された。

# 共同研究（終了分）

1. 試験材料の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272 (1992)
2. 前培養条件の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272 (1992)
3. 背景データの解析と管理
4. TA102, TA2638, pKM101導入WP2株などの有用性の検討  
Mutagenesis, 10 (1995) , Mutagenesis, 11 (1996)
5. 至適前培養条件の簡易検討法 Mutat. Res., 334 (1995)
6. プレインキュベーション法の試験条件
7. 大腸菌WP3101P ~ 3106P株を用いた突然変異スペクトルの解析に  
関する研究 環境変異原研究, 25 (2003)

# 共同研究（進行分）

## 1. ニトロアレーン, 芳香族アミン等の化合物に高感受性を示すG株を用いた研究（実験進行中）

当研究会の定例会において中間報告済み

追加データを採取後, 2003年のJEMSにて発表予定

## 2. ヒトS9を用いるAmes試験（実験終了し, 論文作成中）

8th ICEMにてポスター発表（第1回共同研究分）

第31回JEMSで口頭発表（第2回共同研究分）

（ 第32回MMS共同研究 : ヒトS9を用いるヒト培養細胞試験  
について発表予定）

# BMS研究会のありかた(存在意義)

— 定例会やHome pageを通して —

1. 所属研究所以外の方達との人脈構築の場
2. 情報入手・交換の場 (何の情報が知りたいか?)
3. 共同研究の場 (どういふ研究がしたいか?)

# BMS研究会の将来の方向性

- 1 . Ames試験のさらなる向上を目指し,共同研究等を通じて技術的(手法も含めて)な検討課題を解決していく。
- 2 . Ames試験結果のデータベースを構築し,構造活性相関検索に役立てる。
- 3 . 少量新規化合物を対象とした大量処理型Ames試験法を開発し,企業でのスクリーニングに貢献する。
- 4 . 特定な化合物群に特異的に反応を示す新規試験法の開発
- 5 . ヒトS9あるいはヒト代謝酵素遺伝子を導入した微生物を用いた試験によるヒトでの安全性評価に有効なデータを提供する。
- 6 . 新しい領域の研究 (例えばmicro array )に踏み出す。



# お願い

**BMS研究会の存在意義・方向性が今、問われようとしている。このためには、**

- 会員一人一人のご協力なくしてはBMS研究会の発展はない。**
- 共同研究を立ち上げて下さる方、世話人を引き受けてくださる方の出現を切望**
- ご意見やご要望は大歓迎！**